

●中聖牛の蛇簞用製作の竹割作業 真竹 250 本 割る 高橋式竹割機フル稼働 15 日終日の作業を展開

前日に持ち込んでくれた 250 本を確認する。直径は 6～7 センチの太さの真竹をと依頼してきましたが、淡竹がかなり混ざっていました。そして的確な太さということでは、望んでいた太さとは随分違っていました。それでも自分たちで切りそろえることは大変な作業なので、苦情など言えるものではありません。15 日は終日降雨が続くとの予報で、苦勞するかと覚悟を決めていましたが、雨をほとんど気にすることなく、それなりの天気でした。午前中に集まったのは、高橋慶平さん森島保さん大釜智光さん深田三郎さん、そして山村の 5 人でした。2 トントラックに積み込んだまま、竹割り機を適当な方向に向きを変えて作業を開始しました。押し込む人、操作係 引き出す人 選別する人 割れたものを整理する人という最低人数ギリギリの陣容でした。それでも初めての連続作業なのですが、運転方法がわからず、ぎくしゃくの繰り返しで流れました。太いものは 5 分割に、細いものは 4 分割に切り替えながら進行しました。徐々に慣れ、要領をつかみかかりました。約 1 時間の連続作業で休憩としました。それぞれが感想を述べ合って、改善点を出し合いました。この機械が順調に流れるには 5 人では無理で、あと 3 人の追加があれば、スムーズに無理なく運転できるのではないかということに落ち着きました。15 分の休憩を終え午前中後半の作業を始めました。やはり少しの休憩をはさんでだけで、持ち場がハッキリしてきて、かなりスピードアップします。各自が要領をつかんだのでしょう。最初とは随分違った進み具合です。11 時 50 分、午前中の作業を終えました。

ここで、残りの作業量は、竹の山を見ると、とても本日中に割り終えることはできないだろうという見通しを持ったものです。不慣れな作業で力の入れ方も分からずに、ただがむしゃらに汗をかいて頑張ったので、短時間で、気分も体力も使い果たしていました。

午後も同じ陣容だとかなりきつい作業になるのではないかと覚悟を決めた昼食時間でした。たっぷり休憩時間を過ごして、午後の作業に取り掛かりました。少し要領が解って、力を抜くところも分かってきました。30 分を過ぎた頃、小林君と田住君、それに熊本に転勤している橋口君が駆けつけてくれて、新しく若い力が加わってくれて一気に元気を取り戻しました。スピードがグリーンとアップしました。とても今日中にできないと諦めていたところ、約 2 時間の作業で見事に割り切ることが出来ました。

思いもよらない仕事ぶりでした。若い力をまざまざと見せつけられました。最後に幅精製機の試運転を行いました。これはかなり難しい作業であることがわかりました。さらに工夫をしないと、思うように能率が上がらないことがわかりました。駆けつけてくれ賀美奈さん本当にご苦労様でした。

●マラソン実行委員会からメールを受信 大慌てで返書を書き、翌朝 2 時に書き上げる

第 24 回が終了した時点で、200 本の竹伐採は、里山の会では引き受けることができないと表明して、35 回大会取り組みが始まりました。そして成功裏に終了し、今回 36 回目の取組が始まっています。この 2 年間、様々な局面を超えてきましたが、基本的にこの課題をクリアできなく、里山の会は 2018 年度第 2 回理事会で、マラソン実行委員会に、従来行ってきた清算方式の請求から契約方針を提案して、協力する方向の転換を提案しました。ところが実行委員会からの返答は、契約方針は考えていないと返答があり、このままでは協力できない事態が発生するという不幸な状態になりかねない状況に至りました。本日の事務局会議でかなり議論しましたが、一致が見られず、次回事務局会議 9 月 26 日(水)9 時 30 分開始を拡大事務局として、第 2 回理事会決定を基本に経過を精査し、方針を決定することになりました。これまで事務局会議は「来る人を拒まず」を貫てきましたので、関心をお持ちの皆さんのご意見を承り、物事を決めてきました。今回もこの方針を堅持し、方針を確定したいと思っています。できればこの難問をこのあたりで決着がつけられるといいなあおもっています。

●全理事に正式回答とこれまでの経過を届ける マラソンへの返書の確認 拡大理事会必要ではないか。全理事 11 名には、これまでの経過メモをお届けし、決定を順守する執行義務が伴う自覚を持って対応していただきたいと思っています。

●アユモドキ救出作戦を見学 現地視察見学会 午後から地元取組み解説と議論に参加

この日自然環境保全京都府ネットワークのメンバー約 15 人が亀岡駅に集合、地元の中田さんのご案内で天然記念物のアユモドキの生育地の見学学習会に臨みました。現地では救出作戦をということで川をせき止めてヤナを使って捕獲作戦が行われていました。その現場を見学し、保全の対策を行っている田んぼや周辺での取り組みを学びました。アユモドキの生態は従来コメ作りの伝統を引き継ぎながら生育に協力がされています。救出作戦に参加されている皆さんは 70 歳前後のお方とお見受けしました。中に何人かの若者もおられましたが、まさに絶滅危惧種的な存在のように映りました。その横で、サッカースタジアムの建設がすすめられ、生育産卵地が残されていました。貴重な行動を見学させていただきました。現在日本で岡山県と京都府亀岡の 2 か所が生育地なのです。

●竹蛇籠の製作 10 月 7・8 日に静岡の原小組さんが 5 名指導に来所 本格的に製作できるチャンス 奮ってご参加を。竹蛇籠の製作講習会の日程が決定しました。静岡県原小組さんが 10 月 7 日 8 日にお越しただいて、竹蛇籠の指導を行っていただくことが決定しました。一昨年は 7～8m の竹蛇籠を編み上げて、翌日設置をして完成させるという神業的な作業委を行っていただきましたので、正確に学びあう場が難しく学ぶことができませんでした。昨年は里山の会が独自で 27 本を作りあげましたが、随分と苦労を重ねました。

今回は、この日のノルマは考えずに、しっかりと技術を教えていただくことに重点を置いて、開催します。折角ですので、どなたも気軽にご参加いただき、竹蛇籠の製作を身に付けていただき、技術伝承を計るということでご参加ください。簡単なようで、実際は難しいようです。多くの方々のご参加をお待ちしています。メールで申し込んでください 住所、氏名、年齢、電話番号をお願いします 募集人数はおおよそ 100 名を考えています。先着順で受け付けます。参加費無料です。弁当ご持参ください

●秋の蛇籠付近の生き物調査 10 月 6 日(土) 10 時から 12 時まで 参加者を募集

蛇籠を設置して以来、春と秋に生き物調べを京都大学の皆さんのご協力で実施してきました。今年の中聖牛を設置したので、さらに期待が膨らみます。新しいワンドが誕生しています。地形も大きく変化しています。こぞってお越しください。

●竹蛇籠用の竹の「節とり」と「ひび入れ」作業の実施を 22 日(土)23 日(日)24 日(月)の午前 9 時から 12 時まで行います。蛇籠製作のテストマッチも午後 1 時から 3 時まで併せて行います。ご参加ください。

●会誌 45 号原稿の締め切りが 9 月 20 日(水)となりました

ご寄稿は数えるほどとなっていて、大変厳しい状況であります。先にも仲間の広場への投稿を強くお願いいたしましたが、最近の天候異常、強力台風の上陸、異常コース、連続発生、異常集中豪雨、土砂災害の発生、猛暑の連続、地震災害とこれまで考えられないことが連続して発生しています。何か大きく流れが変わっているように思います。ご感想をお聞かせください。お待ちしております。

木津川希少種植生調査	9 月 21 日(金)	里山植物部会 担当 伊藤 千恵子、他	集合 市役所駐車場
ばったのオリンピック	9 月 23 日	ガイド 河川レンジャー 村上 ゆい	集合
竹蛇籠用素材の節とりひび入れ	9 月 22・23・24 日	指導 里山の会 有田勉 森島保	集合 玉水橋東詰め
第 4 回蛇籠周辺の生き物調べ	10 月 6 日(土)	指導 京都大学准教授 竹門康弘氏	集合 玉水橋東詰め
竹蛇籠政策講習会	10 月 7 日・8 日	指導 原子組 5 名	集合 玉水橋東詰め
里山農園夏原資金事業竣工祝賀会	11 月 17 日(土)	白土山探検ルート 掲示板披露	ガイド・森島、金田